

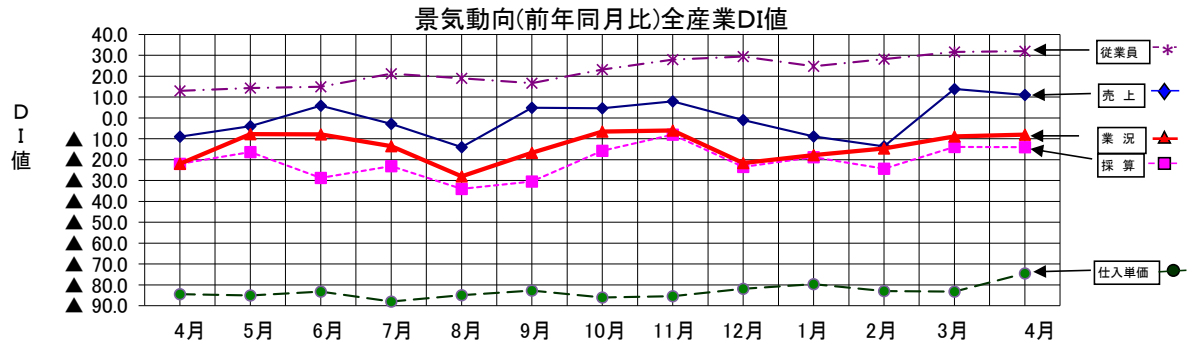
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 4月分

【4月の概要】

長らく低迷していた「仕入単価」が改善
先行き見通しでも「採算」「業況」「仕入単価」で2ケタ台の改善

業況判断を示すDI値は、「業況」で4か月連続の改善を示すとともに、長らく低迷していた「仕入単価」では8.7ポイント改善した。また、先行き見通しも「採算」「業況」「仕入単価」で2ケタ台の改善を示している。

コメントでは、依然として、原材料等物価高騰が利益を圧迫している状況が続いており、人手不足や高齢化も深刻になっている状況が読み取れる。一方で、コロナ禍で減少した人流が戻りつつあり、新型コロナの5類移行への期待感も窺える。来月以降の持ち直しに期待したい。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)

	2022年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2023年 4月
売上	▲ 9.0	▲ 3.9	5.9	▲ 2.9	▲ 14.0	4.9	4.6	8.0	▲ 1.0	▲ 8.9	▲ 13.6	13.9	11.0
採算	▲ 22.0	▲ 16.4	▲ 28.7	▲ 23.1	▲ 34.0	▲ 30.4	▲ 15.7	▲ 8.0	▲ 23.5	▲ 18.8	▲ 24.3	▲ 13.9	▲ 14.0
業況	▲ 22.0	▲ 7.7	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 28.0	▲ 16.7	▲ 6.5	▲ 6.0	▲ 21.6	▲ 17.8	▲ 14.6	▲ 8.9	▲ 8.0
仕入単価	▲ 84.5	▲ 85.1	▲ 83.2	▲ 88.0	▲ 85.0	▲ 82.8	▲ 86.1	▲ 85.5	▲ 81.9	▲ 79.7	▲ 83.0	▲ 83.2	▲ 74.5
従業員	13.0	14.4	14.9	21.2	19.0	16.7	23.2	28.0	29.4	24.8	28.2	31.7	32.0

- ・プラス幅が増加したDI値：従業員0.3ポイント（人手不足局面へ）
- ・マイナス幅が減少したDI値：業況0.9ポイント、仕入単価8.7ポイント
- ・プラス幅が減少したDI値：売上▲2.9ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：採算▲0.1ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
2月	4.9	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 61.2	28.2
3月	4.0	▲ 16.8	▲ 18.8	▲ 55.5	32.7
4月	1.0	▲ 6.0	▲ 8.0	▲ 42.0	28.0

- ・見通しが改善したDI値：採算10.8ポイント、業況10.8ポイント、仕入単価13.5ポイント、従業員▲4.7ポイント（需給均衡局面へ）
- ・見通しが悪化したDI値：売上▲3.0ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	リフォーム	依然として原材料高騰、ガソリン・燃料の高止まり、電気料金の値上げなどが経営を圧迫している。
	管工事業	人員不足のうえに新卒採用が思うように進んでおらず、従業員の高齢化が進んでいる。
製造業	溶接	原材料は高止まり。仕事量はあるが、高いスキルを持っている人材が少ない。技術継承を進めていきたい。
	印刷	原材料、運賃、エネルギーコスト等の増加により製品価格への転嫁を余儀なくされている。
卸売業	青果	歓迎会等外食産業の回復傾向が見られる反面、物価高騰により一般家庭の購買行動は引き続き鈍い。
	履物	コロナ禍よりは改善してきているが、物価上昇が厳しい。
小売業	印鑑他	コロナの峠を越えても、売上が思うようには戻らない。
サービス業	タクシー	燃料、タイヤ、部品などの物価高騰が採算ベースを崩している。また、ドライバーの高齢化が顕著となっている。
	不動産	5月8日からの5類移行に期待している。人の動きも活発になってきているように感じる。
警備業	警備	コロナ禍で縮小したイベントの受注増が見込まれるが、物価高により利益は圧迫されている。